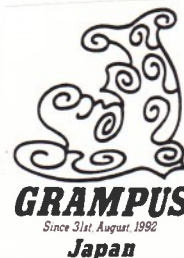




Nagoya GRAMPUS



名古屋 グランパス ワイズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA5-2 KAMIMAEZU2 NAKAKU NAGOYA 460-0013 JAPAN

- | | |
|----------|---|
| 国際会長標語 | Enthusiasm Makes The Difference 「やる気が鍵だ」 |
| アジア会長標語 | Build a Better World For The Next Millennium 「より良い世界を次の世代に」 |
| 西日本区理事標語 | A New Creation For The 21 st Century 「21世紀に向かって新しい創造を」 |
| 中部部長標語 | 「地域と共に、広げようY・Yの輪」 |
| クラブ会長標語 | 「ともに情熱を持って 自分を磨こう」 |

1999年 9月号

<今月の聖句>

「イエスは町や村を残らず回って、会堂で教え、御国の福音を宣傳え、ありとあらゆる病気や患いを癒された。また、群衆が飼主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」

マタイによる福音書第9章：35節-36節

例会の欠席者は必ずドライバー又は亀谷主事に連絡すること

1999年9月例会ご案内

◎第一例会

と き : 9月14日(火)

●19:00~21:00 時間厳守

ところ : 名古屋YMCA407号室

ドライバー : 里君

特別ゲスト : 次期国際会長

Dale Fortheringham 氏

卓話内容

「男のためのイメージアップ戦略」

講師 : カラー・ミー・ビューティフル
コンサルタント 鶴飼 功氏

彼は南山YMCAリーダーOBで、現在尾張旭屋洋服店を経営しています。

人にはそれぞれ「似合う色」と「そうではない色」があります。男は外見よりも中身といわれたのは過去のことです。似合う色はデザインを知り本当にあなたらしい装いをしてこそ人に好印象・信頼感を

与え、何事にも成功に結びつきます。着るのも仕事のうち、さあ、イメージアップ作戦のスタートです。私が変わりました。

◎第二例会

と き : 9月28日(火)

●19:00~21:00 時間厳守

●フィットネス : 運動靴、運動着

ところ : 名古屋YMCA

◎アジア大会

と き : 9月10日(金)~12日(日)

ところ : 十勝(北海道)

参加者は時間厳守

予告 : ①10月17日(日)

津クラブとの合同ヨットセイリング

②忘年会はグリーンピア恵那にて一泊

8月例会	例会出席状況				BFポイント		クラブファンド(9月)	
	在席者	24名	第1例会	19名	当月・切手	-	ニコBOXノート	
例会出席者	20名	第2例会	15名	当月・現金	-	感謝ファンド		
当月出席率	83%	部会他	22名	累計		累計		

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

=強い義務感を持とう。義務はすべての権利を伴う=

中部部会ダイジェスト

8月は「納涼ビアパーティー」に始まり、火祭りの後は1999年度のメインイベント、中部部会の開催でした。ホストを引き受けて以来、これまでにない部会にしようと三井実行委員長を先頭にメンバーの入念な計画のもと、一年を経て8月22日に無事その責務を果たすことができました。今回の部会の特徴は「低コスト&濃密度」であったと思います。全体を要約すれば、「会場は名古屋YMCA会館をお借りし、フェローシップアワーは持ちこみ料理で自前の生バンド付き。そして、岩瀬名古屋YMCA総主事の基調講演を基に4つの分科会で討議。(メネット・コメットは美術鑑賞)」という非常に計画性を要求される内容でした。また、ひとつのテーマを持って「基調講演→分科会」とした性質上、一過性のものでなく記録に残すことも必要となりました。そこで、みんなが見ているこのブリテンに、その要旨等を掲載したいと思いました。原稿の集約上、要旨のみになることをお許し願いたい。ちなみに、来年の中部部会は能登半島の穴水にて開催(ホスト：金沢ワイズ)予定です。

では、まず中部部長・会長から一言……。

中部部会を終えて

中部部長 南里 道子

21世紀を迎える今、「もう一度原点に戻ってワイズとYMCAについて語ろう」をテーマに、一年以上前から準備を進めてきた中部部会が、グランパスの力の結集で大きな実を結びました。規模こそ違いますが、第50回日本区大会の経験が活かされ、さらにパワーアップされていたようです。名古屋YMCAを会場にし、参加費を抑え、分科会形式で仲間と共に語り合えた楽しく質の高い部会でした。第1回評議会・総会では部長としての大役を無事務める事ができ、部長方針に「地域と共に広げようY・Yの輪」の実践に向けて良いスタートができたことも、みなさんの貴重な時間や労力の上に成り立っていることと感謝しています。

ワイズとYMCAについて、またそれらの協動についてクラブ単位や部で考えていくことにより、地域社会に対するワイズ運動の広がりが生まれるはずですが、基調講演では「このクラブはこのことを地域に対して活動しています。」といえるものがあつた上で、YMCAと協動してさらに何ができるかという話もありました。西日本区を通じてCSなどで奉仕したり、チャリティランでYMCAと協動して地域に働きかけてはいますが、その他にも個人ではできないけれどワイズならできる奉仕活動があるはずですが、ワイズメンである意味もここにあると思ひます。このように部長方針を掲げてはいますが、

楽しくなければワイズでないとも思います。グランパスのお祭り騒ぎ的ムードを利用して活気ある中部だと評判になることが本当の目的です。今回の部会でも実証されたように、グランパスの実行力は楽しい時間を共有しているところから生まれ、それがひとつの結果になりつつあります。さらにそれを大きな形にしていくために、この一年間、助け船をよろしくお願いします。

名古屋グランパス会長 馬場寅太郎

第三回中部部会を終えて感じることは、部会内容からマネジメントまで全てホストのグランパスにより決定し、運営できたことにより終了後の満足度は日本区大会よりも上ではないかと思ひます。ホスト側の最良目かもしれませんが部会、基調講演、分科会とも参加者の真剣な姿勢が見られ、メモをとる人が多く見られたことは内容の充実度を物語っています。

クラブアピールはパーティの席だけでは十分ではありません。おそらく第二、第三分科会がおのおののクラブ活動の肉声による紹介が主であつたろうと思われ、全員が何らかの刺激を受けられたものと思ひます。私自身も名古屋サウスの坂本さんのお話は実に興味深く今後の参考になりました。あまりお話ができなかった方は次回今度こそはとてぐすねひいていらつしゃるかもしれません。

今回の収穫は坂口兄が受けられたのですが、津クラブとの合同ファミリーヨット会(多分10/17)とプラザクラブとの合同例会(未定)の話があつたことです。変化に富んだ楽しい一年にしていきたいと思ひますので合同例会はどんどん受けたいと思ひます。グランパスの行事は年々増えていきますが、楽しく面白ければあまり気になりません。中部部会を終えほつとしたところですが、まだスタートしたばかり南里中部部長を盛り立てて来年6月までがんばりたいと思ひます。

次に、今回の中部部会の目玉である「基調講演」とそれを受けた各分科会の状況を、ダイジェスト版で取りまとめました。ちゃんとした報告書は部会でまとめられると思ひますので、詳細はそちらをご覧下さい。

「基調講演」要旨

「21世紀に向かつてのYとYsの協動」

講演：岩瀬康彦氏

YMCA運動とワイズメンズ運動。歴史的には根元(ルーツ)も目的も共にするムーヴメントでありながら、現在歴史的な転換期の中で改めてその協動のあり方や方向が問われている。その原因と思ひれることは何なのか、なぜ今それを問題としなければ

ならないのか。21世紀に向かってどのような協力・協働を築いていけば良いのかを、YMCAの立場に立ちつつ、共に考えて行きたい。

○YMCAとYs運動遊離の克服

- ・YMCA事業の進展、専門家とスタッフ中心の運営
- ・「何をなすべきか」の明確化
- ・ワイズメン、スタッフの有機的協力

○YとYs協働の条件

- ・事業（プログラム）が会員・ワイズメンのサポートに値する内容であること
- ・スタッフ側にワイズメンに快く参画してもらうための姿勢が備わっていること
- ・ワイズメンにYMCAを支える認識と喜びがあること

分科会記録 要旨

第1分科会「ワイズをもっと知ろう」

司会：服部庄三（グランパス）

長井講師の講演とビデオ「日本区70年のあゆみ」により、ワイズ発祥からの歴史を知り、ワイズ運動の理念を理解し、ワイズの組織・ワイズメンの働き・YMCAとの関わりについて学んだ。参加者は超ベテランから超ビギナーまで幅広く、歴史を振り返り、新たに学んだ者と思い出の中に活動を再認識した者それぞれに意義ある時間でした。しかし、非常に大きな内容であり参加者は重いお土産を持って帰ることとなりました。

第2分科会「地域で活躍するクラブに学ぶ」

司会：松本礼子氏（サウス）

パネラーから各クラブの地域活動の現状が報告され、今後のCS活動のあり方が論議された。

ワイズメンズは謙虚である。EMCが拡大しない一因がここにあるのではないかと。しかし、今後CS活動を拡大・充実するためにも、いかにPRしていくかが重要である。そのためには以下の手段・方法に可能性がある。

- ①マスコミを利用する
地域のミニコミ誌やNHKのお知らせコーナー等
- ②アンケート活用
活動参加者への簡単なアンケート（○×式）の実施による次企画の充実
- ③CS活動とEMCとの連携
仮にメンバーに入らなくても、何かやりたい人はたくさんいる
- ④様々な活動への取り組み
不登校・心の問題に取り組んでいるクラブもある
- ⑤財源の確保
参加費が無料ということばかりではなく収益性に持って次につなげて行く

⑥YMCAとの協働

クリスマス献金やチャリティーラン収益金を各クラブに割り振ってもらうことを検討。また、チャリティーランなどはその収益性ばかりではなく人的資源も豊富である。

西日本区CS事業主任田中昌博氏よりCS活動支援金を十分活用していただきたいとのこと。

第3分科会「YとYsのパートナーシップを考える」

司会：坂口功祐（グランパス）

「私たちは、すべての人々が生涯を通じて禅人的に成長する事を願い、すべてにこの命をかけがえのないものとして守り育てます。私たちは、一人一人の人権を守り、正義と更生を求め、喜びを共にし、痛みを分かち合う社会を目指します。私たちは、アジア太平洋地域の人々への歴史的責任を認識しつつ、世界の人々と共に平和の実現に努めます」。

この「私たち」で始まる3つの言葉に共通的な価値観を見いだせる人が集まれば出来ることが一杯ある。YMCAでなければYsでも結構、他の組織でも結構です。一人一人が孤立化していくような大変な世の中に進みつつある現在、これからどういうネットワークに属していくかということが大変問われていく時代に、YMCAの優れた組織は、21世紀社会を生き抜く上で大変価値のある組織体となる可能性がある。そのYMCAを支えていくためにも、良質な人の達の集まり、人の輪を拡大していくことに私たちは努めねばならない。今日は将来のYMCA活動に希望が見えたとの意見もありました。

第4分科会「ボランティア活動を考える」

司会：荒川恭次（グランパス）

ボランティアセンターの筒井亜希子さんによる現在の活動の内、特にワイズの関わり・役割について事例の報告後、各ワイズの活動ぶりが発表された。筒井さんの報告の中でチャリソンラブキャンプなどグランパスのチャリソンに対する一貫した活動が高く評価されていた。また、各ワイズのそれぞれの独自性（労働的ボランティア、金銭的支援、ワイズが興味ある分野）を生かした、そして行動に無理のないボランティアを行い、長続きできることの重要性が強調された。また、全体的にワイズメンの高齢化でこれまでの活動が体力的に継続できるのかという新たな問題点も提起されました。地域のYMCAではワイズメンの活動そのものがYMCAの活動そのものとなり、ワイズとYMCAの距離が非常に近いことが感じられました。

以上無機質な文字のみの掲載になりましたが、それなりに内容は奥深く濃いものです。みなさんこれらをどう料理しますか。さて、フェローシップアワー・ボストン美術館での名画鑑賞はどうであったか。次回は写真を取り入れて報告します。